

五の池 小屋だより

御嶽の紅葉 — 心のカメラ —

御嶽の八合目から上部は、実に美しく紅葉していて、まるで万華鏡のようであった。赤、黄、朱、黄緑、本当に色とりどりで派手やかである。一本一本の木はもちろんだが、その一枚の葉の中にもさまざまな色がある。赤と黄色の間にも無限の数の色があり、一言で何色なんて言えないのだ。日本人の色彩感覚は他国より優れていると聞いたことがあるが、この紅葉を眺めているとうなずける。僕は目に映るすべてのものから秋を感じ、御嶽の紅葉にすっかり魅了されてしまっていた。

山を歩くとき、僕はいつもカメラを持ち、美しい景色を見つけては写真を撮る。しかし、今日ばかりは、目の前に広がるこのすばらしい紅葉の景色に、だんだんと写真を撮るのがばからしくなってきたのだ。カメラをのぞいて見るより、自分の目でそのままの景色を見て、心から自然を感じることに。それが一番大切なことではないだろうか。

数日後、雨混じりの冷たい風が山に吹き荒れ、あくる朝、御嶽は初冠雪を記録した。同時にあの見事だった紅葉の世界はまるで嘘のように一瞬にして去ってしまっていた。しかし、僕の心にはまだ、あの鮮烈な紅葉の色彩が焼き付いていた…。 (写真・文市川典司)